

“ だいじょうぶだった? ”

胆振東部地震から2カ月半が過ぎた11月22日、見守り活動推進会議が開かれました(写真)。

今では40名の協力員体制となり、そのうち今年から活動を始めた方が17名です。見守りの対象者は28名。

協力員は近隣の高齢者世帯など気がかりな方にたいして、さりげない見守り活動も進めています。

推進会議の際、グループ懇談のなかで語り合われた内容の一部を記します。

- 地震の翌日、「大丈夫だった?」と訪問したところ、「心配してきてくれたの?」と喜んでいただきました。
- 私は3名の方の見守り・訪問を担当しています。皆さんお元気ですし、隣近所の方と交流もあるようなので安心していきます。
- 今年から協力員になりました。私が在職中はご近所の方にわが家を見守って頂きました。今度は私のほうから折に触れて近くの方への見守り・声かけなど心がけています。(右上に続く) ↗



社協地域見守りサポーター
イメージキャラクター「まもりん」

胆振東部地震その後・・・見守り、助け合いの活動



- 停電が続きましたので、心配な方の家へ「懐中電灯持ってきたよ」と訪問。すると、「ありがとう。でも、隣の人が電灯を持ってきてくれたよ」と感謝していました。
- 最近、協力員になりました。以前、清田区役所で傾聴ボランティアの研修を受けた事が、現在の活動に役立っています。

専門機関からの話

清田区社会福祉協議会

荒 正和 事務局次長

本日の会議に出席し、皆さん方による見守り・安否確認などの活動が、着実に推進されていると実感いたしました。

活動にあたっては課題もあることでしょう。たとえば「普段はけっこうです。災害の時だけ来てください」と言われるケース。この場合、訪問はせずに戸口周辺からの“見守り”だけは続けたいものです。

見守りをしていて、生活環境などで心配な方がいた場合、地域包括支援センター等にご相談ください。区役所には保健師もいますので緊急事態などがあればご連絡いただきたいと思います。

◇ 「見守り・声かけ」活動の記録 ◇

平成30年6月～11月までの記録

	活動内容	対象者	対象者以外
1	訪問・対話(インターフォン含)	211回	138回
2	戸口などでの見守り	143回	152回
3	電話での声かけ	15回	1回
4	路上、店舗などでの声かけ	55回	43回
	計	424回	334回